

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992500090		
法人名	ミツイ商事(有)		
事業所名	グループホームえにし苑		
所在地	那珂川町谷川1609		
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果市町村受理日	平成28年6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ		
訪問調査日	平成27年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

栃木県東部の過疎化の地域で山合いの田圃の広がる廃校を利用した施設です。地域の方にとっては親子何代にもわたっての学び舎でもあるため、いろいろなイベントには沢山の方が出席して下ります。地元の職員も多く、ご利用者様・職員とも顔馴染みの関係でもあります。今年も苑内の菜園にはじゃがいも・さつま芋・ねぎ・小豆・里いも等作り芋煮会を行い収穫の喜びを感じました。グループホームを活かす意味で、毎日のお米とぎ等出来ることをやっていただいたり、買い物の企画を取り入れたりと生活にメリハリをつける工夫をしています。併設する小規模の利用者様との交流も図れるよう支援しています。えにし苑の主催で昨年と今年2年連続で盆踊り大会を行い地域おこしの一役も担っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・廃校になった小学校を活かした建物で、所々に懐かしい雰囲気を残した生活空間となっている事業所である。
 ・地域行事に参加し、地域で行う企画にも場所を提供したり、話し合いなどにも積極的に参加しており、地域とともに事業所を盛り上げる努力が行われている。
 ・法人内の訪問看護や協力医と、連携をはかり、利用者の重度化や体調変化にも迅速に対応ができる体制が出来ている。
 利用者の嗜好や食に対する意識を高めるために、五感を刺激する演出が盛り込まれている。また、食事の準備や片づけなども一緒に行い、食事を一方的に提供するのではなく、残存機能を生かして食事を楽しむことができる支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「介護を必要としているご利用者様、ご家族様、地域社会に対して、安全と安心と満足を提供し認められ、選ばれること。」法人共通の理念を掲げています。	利用者、家族、地域社会に対して安心と安全の提供を理念に掲げている。例えば、現場の事故を未然に防ぐために、ヒヤリハットが出た場合はその日のうちに原因や発生状況などを職員全体で確認し、分析や検討を行い同じミスが出ないようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治体に参加し、缶拾い、草刈り等に参加している。グランドゴルフの地区大会には苑からも数名参加している。去年・今年と2年続けてえにし苑主催による盆踊り大会も行い地域挙げてのお祭りとなりました。	事業所内の2階を地域のコミュニティセンターに活用し、地域の人がカラオケを楽しんだり、料理教室を開いたり地域行事の拠点となり、憩いの場となっている。また、地域のそば打ち名人を招いて、様々な人にそば打ち体験や試食会を楽しんでもらう企画を立てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	花の風まつりでは毎年認知症理解のための寸劇をしています。(今年のテーマ:ご飯まだ食べていません)また、えにし便りを回覧し苑の様子を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者が推進委員に入っており、都合のつくときや調子のよい時には出席して頂き、今年には市員の芝ざくらを見たいと言われ見学しました。	自治会長や老人会長などの地域の人を積極的に招いている。事業所の報告だけでなく、地域で起こった出来事や注意喚起などを交えて、誰でも発言ができるような会議を心掛けている。また、会議で話し合ったことは全職員に回覧し、情報の共有が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会では小規模と合同で行っており、地域包括支援センター・町担当者・民生委員等活動の実績等を報告し助言や提言を頂いています。	事業所の相談事や実情の報告などを密に連絡を取り合っている。電子メールを活用し、確認事項や町役場の協力を依頼することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準において禁止の対象となる具体的な行為を勉強会やミーティングにおいて理解を再認識している。利用者の安全確保のため、居室の掃出し窓には防犯管理がされています。	法人全体で研修チームがあり、各事業所で研修係が持ち回りで研修を行っている。その研修では身体拘束に関するテーマを行い、共通理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では勉強会やミーティングを行い指定基準を図っている。入浴時には傷やあざがないか体の変化に気付くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度に関する勉強会を開き職員の理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際し、条文をすべて読み上げ、理解、納得を得た上で契約を締結しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時において意見ご家族からの要望や話をお聞きしています。必要に応じて上司に報告しています。改善必要時は話し合います。	面会時に利用者本人の様子を伝えるとともに、家族の意見も聞く機会を得ている。遠方の家族など来所が難しい方には、こまめに電話や手紙で連絡をとり、関係性が立ち消えないように努め、意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長会議・次長会議等において職員の意見や提案を議題とし検討する機会を設けています。	現場からの意見を毎日のミーティングで把握し、必要であれば毎月1回の施設会議や次長会議で議題として挙げ、話し合われている。環境整備などは活発な意見出ており、理念の安心安全が実行されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や具体的な実績、勤務状況を把握し、職員の働く事への向上心を持つように対応している。係体制を設け職員のやりがいや向上心が持てる様努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミツイ法人の各事業から研修委員を選出し年間の研修計画を作成し、毎月研修を各事業所で行い、ミニテストを行い技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	町の介護ネットワークや介護支援専門員の連絡協議会では同業者と研修を通じて交流をはかっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前は利用者・職員がどのような環境で生活されているか施設見学をさせていただいております。職員は傾聴を心掛け安心できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの時点で緊急性の高い場合は必要に応じてすぐにサービスに結びつけ、必要とする他のサービス利用についても対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様を毎日の生活の中で、本人の出来る事や役割を探し、残存機能を引き出すようかかわっています。残存機能にどこまでできるかを見極める力を養うための職員研修もしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時は一緒にお茶を飲んで頂き、今でも大切な人であることを伝え、本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時は一緒にお茶を飲んで頂き、今でも大切な人であることを伝え、本人を支えていく関係づくりに努めている。	昔から利用している美容室へ行ったり、近くの神社に散歩に行ったりと馴染みの場所へ自由に出かけられる様になっている。また、気軽に友人や知人も訪ねてきており、お話しできる環境も整備されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置を考え、少しでも快適に生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても出来る事があれば相談、支援する協力の意思をご家族に伝えていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知であっても日々の生活の中で、本人の希望、意向の把握に努めています。職員は家族との関係を築きながら、利用者の思いを把握し、本人本位の対応を行っています。	利用者とのコミュニケーションを多く取り入れて、一人ひとりの気持ちや意向を把握している。また利用者の情報シートを取り入れて、職員全体で情報交換ができるため、誰が対応しても同じケアができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後の生活が安心して送れるように、入居前に本人、家族から得た情報を基に本人の生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状態に合った過ごし方が出来るように日々の心身の状態をよく観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者がそれぞれアセスメントし、本人、家族の意向を反映させ、ケース担当者がカンファレンスで検討する。	居室担当が配置されており、日々の観察や変化を個別日誌や業務日誌に記載している。重要な部分は赤字で記載し、介護計画の見直し時期に、支援の変更へとつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別介護日誌に毎日の様子を記録しミーティングやモニタリングで介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズにより対応できるよう外出する機会を多く設けたり、ボランティア等来所して頂き外との交流を図って行くことをより多く出来るように検討したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校・保育園・ボランティア等の受け入れを積極的に行い交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は協力医にお願いし、通院が必要な他の病院の時には家族対応をお願いしています。都合のつかない時には職員が同行しています。月に1回の往診もしています。	訪問看護や小規模の看護師が常に利用者の状態を観察しており、必要な場合には主治医につなげて適切な医療が受けられるようにしている。また受診支援は家族が行い、利用者の必要な情報は用紙に記入し、家族でも難なく受診できるように配慮されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、異常の早期発見に努め、家族、主治医に連絡相談している。また、緊急時の連絡体制も整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご家族より状態確認や面会時は病院関係者と情報交換を行っている。退院に向けてのカンファレンスで得た情報をミーティングにおいて情報交換を行い早期の受け入れ体制を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については家族と話し合えて出来る限り希望に沿うように考えています。	法人内の訪問看護と協力して、重度の人や看取りの人の支援が確立されている。また、協力医の往診もあり、適切な医療への対応が出来る。また、利用者や家族には入居前に重度化などについて話し、現時点での家族の意向を聞いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が対応できるよう救急法の研修や避難訓練を行っている。AEDを設置し使い方を訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時には消防署の方に来て頂き訓練を行っています。地域の方の協力を今後どのようにして頂くか検討中です。推進委員会で依頼しました。	年2回、避難訓練を行っている。連絡網で職員に連絡し、利用者を実際に外まで避難させる等の訓練を実践している。防災マニュアルや備蓄も整備されている。	夜間想定避難訓練を実践することや、地域住民の参加等、更なる災害対策の体制を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であっても一人ひとりを尊重し尊厳を損ねないような接し方を心掛けています。	入浴や排泄では、できるだけ他の利用者に聞こえない、気づかれない声掛けを意識している。また、声掛けは馴れ馴れしい言葉遣いにならないようにその都度、職員間で注意しあい、意識づけしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が話しやすい雰囲気をつくり、言葉かけをしながら自己決定をしていただく。意思疎通が出来ない方は表情などから察するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて起床・食事・就寝などを行っています。出来るだけその時の状況に合わせて対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容や服装は清潔に心掛けています。要望があれば美容院によるカットもお願いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみでもあるので、嗜好調査を行い出来るだけ一人ひとりの意向に沿うように、また、献立に反映するようにしています。	食に対する興味を高めるために、食材の買い物は利用者と一緒に行くことを心掛けている。また、食事は地のもや旬のものを取り入れて、手作りのものを利用者に提供している。さらに、利用者に嗜好調査を行い、一人ひとりが食事に楽しみが持てる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好・アレルギー・加糖制限・水分制限を把握し提供しています。元気な方はミツイ法人では起床時・朝食時・10時・昼食・おやつ時・夕食・就寝前の7回1400mlの水分を目安にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり口腔ケアの実施をしています。義歯の観察も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者に合わせて食事の前後や尿量の多い時間帯を観察しその方に合った排泄パターンにて行っています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な声掛けや誘導の仕方により、オムツやパットの利用を最小限に抑える努力をしている。夜間もポータブルトイレを使用し、可能な限り、オムツに頼らず安心した排泄の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないようにしたり、運動したり、便秘予防に努めています。排便は朱字にて記録し、3.4日排便ない時は排便への働きかけをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前のバイタルチェックはもとより、体調の変化を確認し気持ちよく入浴できるようにしています。入浴剤の使用、冬至のゆず湯等季節の入浴としても楽しんでいます。	特に曜日や時間帯を決めずに入浴支援を行っている。季節によってはゆず湯にしたり、入浴剤を使って温泉気分を味わってもらおう試みをしている。また、浴槽を跨げなかったり、介助が要する場合はリフト浴に切り替え、重度になっても安心してゆっくりと入浴できる整備がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には玄関前で日向ぼっこをしたり歌を歌ったり夜間安眠できるようにしています。夕方ホットミルクを飲んだり、夕食後テレビを見たりして時間をゆっくり過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐため、内服薬は必ず手渡しで行いの見込みの確認を必ず行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を確認し、出来る事をやっています。(洗濯たたみ、お米とぎ、野菜の皮むき等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿っての外出はなかなかできませんが、馴染みのお店で買い物が見たい方には時々出掛けて好きな物を買って来ています。	花見や紅葉などの季節に合わせた外出、近くのそば屋や茶屋に出かけて外食を楽しむこともある。また、家族の協力を得て、お買い物や馴染みの美容室に行くこともある。	現在、毎月の外出支援が難しくなっているため、今後はそれを定着できるように期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人かの方はご自分でお金の管理をしています。買いたいものある時は一緒に出掛けて買ってきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できます。声が聞きたいから電話してほしいと言う要望があればすぐに対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には季節感あふれる作品がいつでも飾られています。また、玄関先には手作りのタペストリーがあります。廊下や洗面所にはいつでも花が飾られ、季節を感じていただいています。	対面式のキッチンを採用し、どの位置からでもリビングの様子を見ることができ、利用者からも職員が作る料理を見たり、手伝うことができる。また、各所にソファが配置されており、自分の好きな場所で寛げることができる空間が用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下には休憩できる椅子やマッサージ器があり、毎日マッサージを楽しんでいる方もおります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人の使い慣れた寝具やテレビを持ち込まれ、ご自宅の様にしている方もおります。落ち着くものがあれば持ち込んで下さるようにご家族に話しております。	入居前に本人からどのようなものを好んでいたか、使っていたかなどを伺い、可能な限り再現している。使い慣れた衣装ケースや大切にしていた品々を自由に持ち込むことが可能で、職員と協力して居心地いい居室を作ることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活では移動や見守り、声掛けにより出来る限り自立した生活が出来るように支援しています。表札を付けて自分の部屋を間違わないような工夫もしています。		